

日本・PIF 未来創造高校生交流事業

ミクロネシアの歴史

横須賀市立横須賀総合高校

私はミクロネシアの歴史を調べるにあたって、日本がミクロネシア地域を占領、統治していた時代についてもっと詳しく知りたいと思いました。

日本は過去に多くのアジアの国々を占領し、今でも日本に対して反感を持っていたり、快く思うことができない人も多いと思います。ミクロネシアの人々は反日感情を抱いておらず、日本人とは親しいと聞きますが、それはなぜなのでしょう。日本はミクロネシアを統治して、何を行ったのでしょうか。

ミクロネシア 日本統治時代

スペインの統治、ドイツの統治中、1914年8月に第一次世界大戦勃発、日本は日英同盟に従い参戦、ドイツ領ミクロネシア地域を次々に占拠。ミクロネシア地域を「南洋諸島」と名付けた。

1920年、国際連盟は赤道以北の旧ドイツ領南洋諸島を日本の委任統治領とすることを決定し「南洋諸島」は日本の領土となった。

日本は、南洋群島の日本化という形で政策を進めた。1941年ごろまで、日本は産業を発達させるために島に会社を設立し、産業を活発化させ、輸出を増大させる経済活動に力を入れた。1923年には、輸出が輸入を上回った。ドイツ統治時代の財政が毎年歳入不足だったのに比べて、日本の統治の入ってからの財政の発達は良好で、1932年以降は財政独立を達成した。

南洋諸島の生産と貿易がこれほどまでに大きく成長したのには、日本人が大きく関わっている。日本の委任統治領となつてからの日本人移住者は、5万人のミクロネシア人に対して8万5千人に膨れ上がっていた。また、日本人児童が通う学校を建て、ミクロネシア人のための3年制の学校も建てられた。

太平洋戦争



▲ 日本軍の127ミリ対空砲（8月18日 ポンペイ ソケース・マウンテンにて撮影）
戦中、唯一撃墜された米軍機は、この高射砲からの攻撃によって打ち落とされた

太平洋戦争中、チュークは旧日本海軍のもっとも重要な基地となった。1944年2月、米軍はマイクロネシア地域の旧日本海軍基地への本格的な攻撃を開始した。米軍海軍は、チューク環礁に停泊していた旧日本海軍の艦船を海底に沈めた。旧日本海軍は、3万人の将兵を基地のあったディプロン島に残したまま撤退した。

こうして、マイクロネシア地域は1947年にはアメリカの信託統治地域となり、日本の統治時代は終わった。

8月15日～20日 ポンペイでわかったこと

やはり、ポンペイの人々に反日感情は無いようでした。私が出会ったポンペイの人々からは反日感情は感じられませんでした。

日本大使館を訪問した際に、大村大使から日本統治時代のお話をうかがうことができました。日本がミクロネシア地域を統治し、何をしたのか…それは、共に働き、汗を流し、得るものがあることを教えたそうです。日本は「南洋諸島の日本化」という形で、政策を進めました。一生懸命に働き、道路をつくること、学校を建てること…ただ指示をするわけではなく、一緒に働くことで教えたのです。また、学校では日本語や数学などの勉強も教えたそうです。

ミクロネシアのお年寄りの中には「日本時代が一番よかった」と話して下さる方もいるそうです。

私が見つけた答え（まとめ）

「なぜ反日感情が無いのか」「日本はミクロネシア地域を統治し何を行ったのか」という疑問に、調べたこと、現地で聞いたこと、見たこと、感じたことをまとめ、私なりの答えをだしました。

ポイント（おさらい）

- ・ 日本の統治は無血統治であった
- ・ 日本人はミクロネシアの人々に「働いて得るものがあること」を共に働くことで教えた
- ・ 南京大虐殺のような、ミクロネシア人を痛めつけるような行為は一切無かった
- ・

結論

当時のミクロネシア人と日本人の間に、いい関係が築かれていた。

日本人が後のミクロネシアにとって大切なこと（道路をつくることや、勉強など）を教えた。

このようなことから、ミクロネシア人にとって、日本人は「敵」ではなく「共に働く友」だったのではないかと私は考えました。当時のミクロネシア人と日本人の関係が本当に良い関係だったのだと思います。また、ポンペイを訪問して感じたポンペイの人の心の広さは、昔からのものなのだと思います。

今、日本とミクロネシア連邦の関係は、とても良いと思います。これからも、もっと関

係を深め、ポンペイのごみ問題など協力しあえたら良いと思います。



▲海を睨む大砲 (8月18日 ポンペイ ソケース・マウンテンにて撮影)